

趣旨

- 令和8年度に策定予定の次期「栃木県地域福祉支援計画」及び次期「栃木県ケアラー支援推進計画」の基礎資料とするため、民生委員・児童委員を対象とした調査実施を予定している。
- 本調査は、日頃から地域に根差した活動を行い、地域の状況を把握されている民生委員・児童委員の皆様に御協力いただき、地域に潜在する福祉的課題を把握することを目的とする。

実施方法

【対象】

- ・県内民生委員・児童委員(約3,800人)

【調査方法】

- ・WEB回答(QRコード)
 - ・調査依頼書(QRコード記載)を定例会等において紙で配付し、スマートフォン等で回答。
- ※各市町の実施しやすい方法で可。

【調査項目(案)】

- ・「複雑・複合的な課題を抱える世帯」や「制度の狭間にある世帯」の抱える課題
- ・当該世帯のつなぎ先
- ・ひきこもりの状況 等

スケジュール

7月初旬	市町を通じて市町民児協宛て依頼
7月～8月	定例会等で調査依頼書を配布・回答
9月～	集計
集計完了後	関係機関へ結果提供、計画へ掲載

福祉的課題を抱える世帯の状況調査(民生委員・児童委員向け)(全19問)(案)

- **調査目的:** 育児と介護に直面する「ダブルケア」、80代の親が50代の子を養育する「8050問題」などの「複雑・複合的な課題を抱える世帯」や、「ひきこもり」などの「制度の狭間にある世帯」といった、地域に潜在する課題の状況を可視化し、今後の福祉施策の参考とするため。
- **調査先:** 県内の民生委員・児童委員

I. 相談受付内容について

問1. あなたは、これまでに受けた困りごとの相談で、どのような相談が多いと感じますか。最も多いと感じるもの1つに○をつけてください。(1つ選択)

1. 高齢者に関する困りごと(医療や介護、生活のことなど)
2. 障害者(児)に関する困りごと(生活や就労、将来のことなど)
3. こどもに関する困りごと(妊娠中の不安や子育てのことなど)
4. 生活困窮に関する困りごと(生活保護や多重債務のことなど)
5. その他()

II. 複雑・複合的な困りごとを抱えた世帯の把握

問2. あなたは、ひとつの世帯で“公的な福祉サービスの分野をまたがる困りごと(いわゆる「複雑・複合的な課題」)”を抱えている世帯を把握していますか。(1つ選択)

※複雑・複合的な課題とは:高齢者福祉、障害者福祉、こども・子育て福祉など、公的な福祉サービス分野をまたがって支援を必要とする者

1. 把握している ⇒「問3」へ
2. 把握していない ⇒「問6」へ
3. 分からない ⇒「問6」へ

問3. (問2で1と答えた方にお聞きします)それは、どのような困りごとでしたか。当てはまるものをすべて選び、おおよその件数を記入してください。(複数選択可)

1. 育児と介護に同時に直面している(ダブルケア) []件
2. 高齢の親とひきこもり状態などの中高年が同居している(8050問題) []件
3. 高齢の親と障害者(児)が同居している []件
4. 障害者が、親の介護又は育児をしている []件
5. こどもが、障害等のある親の介護をしている []件
6. その他() []件

【言葉の定義について】

- ひきこもりとは…(「問7」及び「問15」でいう「ひきこもり」も同様です)
概ね15歳から65歳未満の者で、次に該当するような方
 - ① 仕事・学校・家庭以外の人との交流などの社会参加ができない状態が概ね6か月以上続いていて、自宅にひきこもっている状態の方
 - ② 上記のような社会的参加ができない状態であるが、時々買い物などで外出することがある方

IV. 支援者(民生委員・児童委員)自身のことについて

問10. 民生委員・児童委員として活動する中で、対応が困難であると感じたことはありますか。感じたことがある場合、どのようなことが困難だと感じましたか。(複数選択可)

1. 相談内容が複雑で、どこに相談したり、つないだりしたら良いか分からなかった
2. 担当する要支援者を支援機関につなごうとしたが、対応してもらえなかった(たらい回しにされた)
3. 支援が必要であると思われる方がいるが、本人が支援を望んでおらず、声掛けや支援を拒否されてしまった
4. その他()
5. 対応が困難と感じたことはない

問11. 民生委員・児童委員として活動するうえで、不満や不安に感じることはありますか。(複数選択可)

1. 現職者の高齢化
2. 業務負担の大きさ
3. プライバシー、責任への不安
4. 地域のつながりの希薄化
5. 無報酬であること
6. 活動費が不十分
7. その他()

問12. 民生委員・児童委員の担い手確保対策として何が有効であると考えますか。(複数選択可)

1. 就業との両立支援
2. チーム制(複数の委員で区域を担当)の導入
3. 次世代への理解促進
4. 記録や情報共有等のICT化
5. 研修の強化
6. 活動内容の周知の強化
7. その他()

V. 災害時の福祉的支援について

問13. あなたは、担当する地区において、災害時に自ら避難することが困難な高齢者や障害者等を把握していますか。(1つ選択)

1. 把握している
2. 把握していない、分からない

問14. (問13で1とお答えした人にお聞きします)

あなたが把握する、災害時に自ら避難することが困難な人は、実際に災害が発生し、避難を行う際にどのような課題がありますか。(複数選択可)

1. 自ら避難することが困難であることを周囲の人が知らない
2. 避難支援等を実施する人がいない
3. 避難先が定まっていない
4. 避難経路が分からない
5. その他()

VI. ひきこもり状態や、その疑いがある者について

問15.「ひきこもり」状態や、その疑いがある者を把握している方にお聞きします。※「ひきこもり」状態の者などを把握していない場合、お答えいただく必要はありません。その方や世帯の状況について、把握している範囲でお答えください。※明確に分からない場合には、「分からない」又は「推察」で結構です。

<1 人目>(1) 性別(1 つ選択)

1. 男性
2. 女性
3. 分からない

(2) 年齢[]歳代

(3) 同居家族の有無(1 つ選択)

1. 有
2. 無
3. 分からない

(4) ひきこもりの状況(1 つ選択)

1. 外出せずにひきこもっている
2. ひきこもってはいるが、買物や趣味程度の外出はする
3. 分からない

(5) ひきこもりの期間(1 つ選択)

1. 1 年未満
2. 1～3 年未満
3. 3～5 年未満
4. 5～10 年未満
5. 10 年以上
6. 分からない

(6) ひきこもりに至った経緯(複数選択可)

1. 不登校
2. 就職できなかった
3. 失業
4. 家族や家庭環境に起因
5. 職場に起因
6. 疾病・性格など本人の状況
7. 分からない

<2 人目>(※いらっしゃる場合のみご記入ください)(1) 性別(1 つ選択)

1. 男性
2. 女性
3. 分からない

(2) 年齢[]歳代

(3) 同居家族の有無(1 つ選択)

1. 有
2. 無
3. 分からない

(4) ひきこもりの状況(1 つ選択)

1. 外出せずにひきこもっている
2. ひきこもってはいるが、買物や趣味程度の外出はする
3. 分からない

(5) ひきこもりの期間(1 つ選択)

1. 1 年未満
2. 1～3 年未満
3. 3～5 年未満
4. 5～10 年未満
5. 10 年以上
6. 分からない

(6) ひきこもりに至った経緯(複数選択可)

1. 不登校
2. 就職できなかった
3. 失業
4. 家族や家庭環境に起因
5. 職場に起因
6. 疾病・性格など本人の状況
7. 分からない

VII. ひきこもり・8050 問題世帯における「親(ケアラー)」の状況について

「ひきこもり」状態や「8050 問題」の世帯を把握している方にお聞きます。

※把握していない場合は回答不要です。

【言葉の定義について】

- **ケアラーとは：** 高齢、障害、疾病等の理由により援助を必要とする家族、身近な人その他の者に対し、無償で介護、看護、日常生活上の世話その他の援助を提供する方をいいます。

問16. ひきこもり状態にある子を支える親(ケアラー)は、どのような悩みを抱えていると感じますか。(複数選択可)

1. 「自分亡き後」の子の生活や将来への強い不安
2. 親自身の高齢化による体力的な限界(自分の介護が必要等)
3. 経済的な困窮
4. 世間体や周囲の目が気になり、地域社会から孤立していること
5. その他()

問17. 対象となる親(ケアラー)は、地域社会やご近所付き合いから孤立している傾向がありますか。(1 つ選択)

1. 非常に孤立している
2. やや孤立している
3. 孤立していない
4. わからない

問18. 親自身に支援が必要と思われる場合でも、同居する子の状況等を理由に、支援の利用につながりにくいケースはありますか。(1 つ選択)

1. よくある
2. たまにある
3. あまりない
4. ない

問19. 支援につなぐため、県や市町に対してどのような体制整備を求めますか。(複数選択可)

1. 年齢や障害を問わない「断らないワンストップ相談窓口」の設置
2. ひきこもり支援専門員等の配置拡充と、情報共有体制の構築
3. 親(ケアラー)が休息し、悩みを共有できる「家族会」の充実
4. 民間支援団体(ポラリス等)との連携強化
5. その他()